

第3学年 体育 学習指導案

令和6年2月2日（金）第5校時
大田区立松仙小学校 3年1組 30名

校内研究のテーマ

体育が大好きな児童の育成

～3つの課題解決の視点を生かして～

1 単元名

ボール運動領域 ゴール型「ポートボール ～連けいプレイで めざせとく点！～」

2 単元の目標及び単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の目標	ポートボールの楽しさや喜びに触れ、その行い方について理解するとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームを行うことができるようにする。	規則を工夫したり、ポートボールの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。	ポートボールに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none">① ポートボールの行い方や動きのポイントについて、発言したりワークシートに書いたりしている。(知識)② パスやシュートなど基本的なボールの操作ができる。(技能)③ パスを受けやすい場所へ動くことができる。(技能)④ 得点しやすい場所へ動き、シュートすることができる。(技能)	<ul style="list-style-type: none">① 誰もが楽しくゲームに参加できるように、規則を工夫している。(思考・判断)② ポートボールの型に応じた簡単な作戦を選んだり考えたりしている。(思考・判断)③ 作戦および動きのよさについて考えたことを友達に伝えている。(表現)	<ul style="list-style-type: none">① ポートボールに進んで取り組んでいる。(愛好的態度)② ゲームの規則を守り、誰とでも仲良くしている。(共生)③ ゲームで使用する用具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たしている。(責任・参画)④ ゲームの勝敗を受け入れようとしている。(公正・協力)⑤ ゲームや練習の際に、場や用具の安全に気を付けている。(健康・安全)

※本単元では、網掛け部分にしぼって評価を行う。

3 指導観

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年7月告示）体育〔第3学年及び第4学年〕のE「ゲーム」の、

- (1)ア ゴール型ゲームの行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすること。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けること。

を受けて設定した。

本単元では、第1時で安全に運動に取り組めるようにボールの扱い方を知り、試しのゲームをすることを通してルールについて確認する。ルールについては、事前にスライド形式で、作戦カードについてはPDFで児童に配信し、いつでも自分たちでルールの確認ができるようにする。（※CF）これにより、第1時から運動量を確保し、どの児童もプレイヤー、カットマン、ゴールマンの役割や動きについて理解し、見通しをもって学習に臨めるようにしていく。第2～3時では、シュートやパスの仕方を知るだけでなく、パスを受けるための移動の仕方や場所について考えさせ、勝つためにどうすればよいかを作戦タイムで話し合う。

（※AEGH）その際、前単元のTボールやラインサッカーでも活用してきた作戦カードを用いて、チームが勝つための効果的な練習方法を選べるようにする。また、勝敗だけでなく「味方がキャッチしやすいパスを出す」、「全員がシュートを決める」など、攻め方を工夫してチームで協力することのよさを感じさせたい。第4～6時では、これまでのゲームで身に付けた攻め方や守り方を工夫して試合を行う。また、対戦するチームを選べるようにして相手チームに応じた作戦を考え、より主体的に学習に取り組めるように試合の形式を工夫していく。（※EI）

校内研究のテーマである「主体的に学び合う楽しい体育学習」を目指して、3年生ではこれまでに練習方法や作戦について話し合うことを繰り返し行ってきた。その際、作戦カードを活用して勝つために必要な作戦について話し合い、チームの願いを決め、チームのために自分ができることを考えて個人のためを選んでいくようにしてきた。前単元のTボールやラインサッカーから系統立てて話し合う時間を積み重ねることで本単元では、チームの願いから個人のためを選んでいく、自分で考えたりすることができるようにさせ、第4学年へと繋げていきたい。

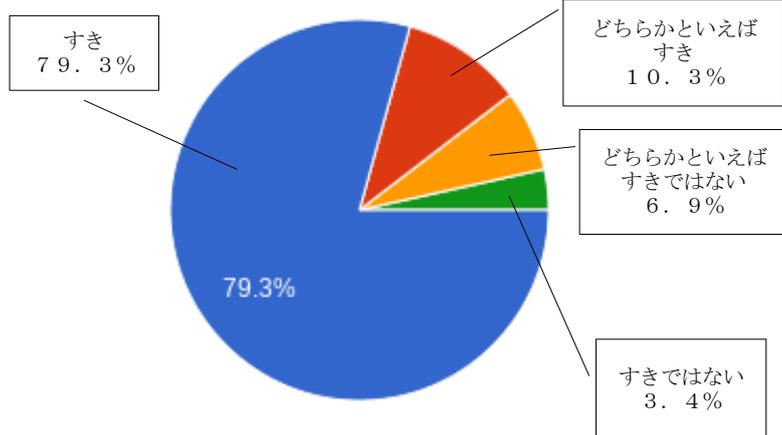
(2) 児童の実態

3年1組の児童は、男女ともに体を動かすのが好きな児童が多く、休み時間になると校庭や屋上でボール遊びや鬼遊びなどをして遊ぶ様子が見られる。力いっぱい遊んではいるものの、投げる、捕るなどの技術面は未熟で、力任せにして投げるだけになったり方向が定まらなかつたりしている。また、友達と関わることは好きだが、距離感を測ったり、コミュニケーションをとったりするのは苦手である。そのため、体育の学習では、一人よがりのプレイになったりパスが繋がらなかつたりして、得点に繋がらずチーム内の関係が構築できないまま単元が終了することもある。自分が楽しめればよいと感じられる児童も多数いるのが現状だ。本単元では、練習カードを中心に、声の掛け方、アドバイスの仕方など、友達と関わり方を学びたい。さらに、自分たちのチームのよさに合わせた作戦をカードから選び、練習し、技術面の向上も図りたい。

（※F）それでもうまくいかないこともあると思うので、その場合は規則を工夫したり、アイデアを出し合ったりするなど、クラスの実態に合わせてみんなが楽しんで活動に取り組めるようにしていきたい。（※B）

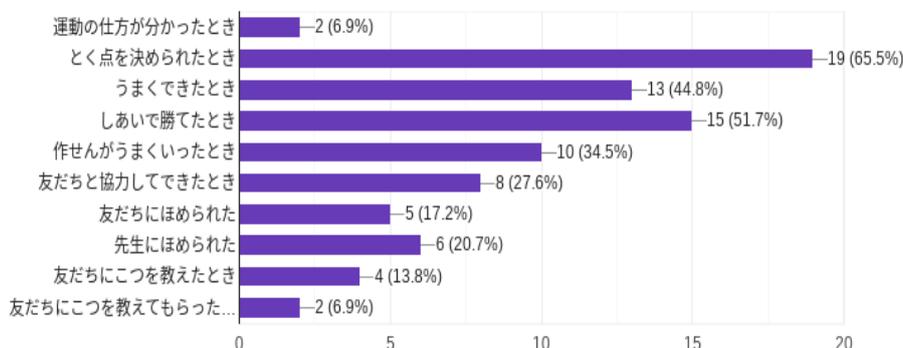
3年1組の児童を対象とした事前アンケートの結果(11月中旬実施)は以下の通りである。

①ボールゲーム(まとあてゲーム・シュートゲーム・Tボール)などは好きですか。



①の質問に対して、「好き」、「どちらかといえば好き」と答えた児童が全体で89.6%いることから、ボールゲームが好きだと感じている児童の割合が多いことが分かった。4月に3学年を対象に行った体育アンケートでも、「体育の学習は楽しいですか。」という質問に対して、クラスの81%が「とても楽しい」と答えている。このことから、体育の授業の中でも、特にゲーム領域で楽しんで学習を行っていることが分かった。

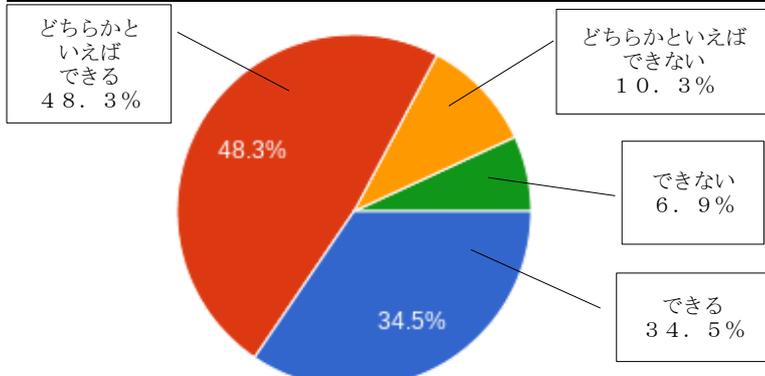
②ボールゲームの授業で楽しいのはどんなときでしたか。



②の結果から、ボールゲームを楽しんでいる理由としては、「とく点を決められたとき」、「しあいで勝ったとき」、「うまくできたとき」が多く挙げられた。また、「楽しくない」と感じるときが多かった回答が、「試合で負けたとき」、「うまくできなかったとき」だった。勝つことや得点につながることで楽しさに繋がっている児童が多いことが分かった。

このことから、試合を通して「勝つ」という達成感を味わったり、多くの児童が得点を決めたりできるような手立てが必要であると考えられる。(※D)そのため、単元の中で、誰もが得点できるよう規則の工夫を行ったり、学年に応じた作戦カードを活用し、チームの課題に合わせて選択したりできるような手立てを取り入れた。(※BF)また、「楽しくない」と感じる児童の中には、ゲーム以前に、ボールに対する恐怖感から「楽しくない」と考えている児童も少なくない。そのため、どの児童も安心して取り組めるよう、用具の工夫もした。(※J)

③ボールをねらったところに当てることができますか。(投げたり・けったり)



「ボールをキャッチしたり、足でとめたりすることができますか。」という質問では、55.2%の児童が「できる」と答えた。一方で、③の結果を見ると、投げたり、蹴ったりすることが「できる」と答えた児童は、34.5%と減っている。「投げる」という動きは、パスするとき、シュートするときに必要な動きとなる。技能を向上させることで、楽しさの1つである得

点をとることにつながると考えられる。そのため、技能のポイントやコツを理解できる手立てが必要であると考えられる。授業の中でパスやキャッチの仕方について扱ったり、補助運動で動きを取り入れたりと、主運動につながる動きを身に付けさせる手立てを取り入れる。(※A) また、「よい動き」とは何か分かるように、友達同士で見合ったり、こつを伝え合ったりする時間を設定する。(※DH)

(3) 教材観

○運動の特性

【一般的特性】

- ・ゴール型ゲームでは、パスやドリブルでボールを運び、攻めや守りを工夫しながらゴールにシュートして得点を競い合うことを楽しむ運動である。
- ・攻め方や守り方についてチームで話し合うことで、友達と協力する楽しさを味わうことができる運動である。

【児童から見た特性】

- ・攻め方や守り方を工夫して、得点を決めたり、ゲームに勝ったりした時に楽しいと感じる運動である。
- ・自分がチームの一員として動くことができたという実感が得られないと意欲が生まれない運動である。

○課題解決の視点

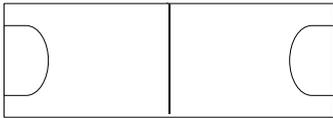
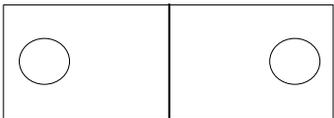
- ① 主体的に取り組むための工夫
- ② 学び合うための工夫
- ③ できたを実感するための工夫



○テーマに迫る手立て

主体的に取り組むための工夫	A 準備（補助）運動 ・補助運動では、ボールをパスしたりキャッチしたりする運動を取り入れる。技能向上の時間を確保することで、主運動につながる動きを身に付ける。
	B 規則の追加 ・2学期に行ったゲーム領域（Tボール・ラインサッカー）では、学級に応じた規則を自分たちで考え、初めの規則から変更を加え学習をしてきた。学級全員が楽しめるにはどうしたらよいか、（全員がボールに触れるように、みんなでパスをしてからシュートするなど。）困った場合はどうしたらよいかを考え、自分たちで規則を変更する経験を重ねてきている。本単元でも、初めの規則から変更し、クラスに応じたよりよい規則を作っていく。
	C スライドでの規則説明 ・学習をスムーズに行うことができるようにするため、準備の仕方や初めの規則などをスライドで作成し、事前にクラスルームで配信した。そうすることで、第1時の時間に行う説明の時間を短縮することができ、児童の運動量の確保にもつながる。また、事前に配信しておくことで、「いつでも・どこでも・どんなときでも」確認することができるので、規則の理解が難しい児童にとっても安心して学習に臨むことができると考える。
	D 掲示 ・学習の見通しをもたせるために、1時間の学習の流れや準備の仕方を示す。 ・初めの規則からクラスに応じて変更したものを作成する。 ・児童が見付けたこつや気付きなどを、「3年1組 連けいプレイで 目ざせとく点！」にまとめる。発言や振り返りの言葉から拾い、その都度書き加えていく。
	E 試合形式 ・単元の前半のうち、活動する中でポートボールの試合に慣れ、プレイヤー、ガードマン、ゴールマンなどの役割や動きについて理解できるように、総当たり戦にする。 ・単元の後半には、自分のチームのよさや相手チームに合わせた作戦で練習したり、試合をしたりできるよう、対戦手を決めて行く。



<p>学び合うための工夫</p>	<p>F 作戦カード (チーム用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームで話し合いができるように、作戦カードを活用する。ゲームでの動きやチームの課題に合った練習方法を選択できるようにした。 ・使い方に慣れるように、2学期に行ったゲーム領域 (T ボール・ラインサッカー) で、系統立てて活用できるように指導した。 ・話を伝える際は、「話型」を使用し、伝えるのが苦手な児童でもスムーズに話し合いができるようにする。 ・作戦カードは、クラスルームでも配信をし、いつでも確認できるようにする。 <p>G 学習の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3学年はこれまでの運動遊びから技能にかわる重要な時期である。遊びから技能へと変わるため、児童にとってもすべてが初めての学び方となる。そこで、学年の初めから系統立てて指導に当たってきた。①Tボールでは、チームのめあてを選ぶことができるようにする。②ラインサッカーでは、チームの願いから、個人のめあてを選ぶことができるようにする。③ポートボールでは、チームの願いから、個人のめあてを選んだり、自分で考えたりすることができるようにする。このように、系統立てて指導を積み重ねていくことで、第4学年への接続が段階的に行っていけるようにする。 <p>H ゲームメンバーの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30人÷6チーム=5人/チーム ・ゲームメンバーは、ゴールマン1人、プレイヤー3人、カットマン1人の5人で行う。(休み等でどちらかのチームが4人しかいなかった場合、少ない方に人数を合わせてゲームを行う。余った1人は、外で声出し。得点が入ったらチーム内で交代してゲームに参加できないことがないようにする。) ・それぞれの児童の技術の定着と、チームの力の偏りを作らないようにするために、ゴールマンは固定せず、交代で回す。
<p>できたを実感するための工夫</p>	<p>I 場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コートの大きさと、運動量の確保から、コート数を3とした。 ・第1時で行う試しのゲームでは、①のような場を設定する。①の場でゲームを行っていく中で、半円ではなく360度どこからでもシュートが打てるように、ゴール位置を設定 (②の場) すると、得点の確立がさらに上がることを児童から引き出し変更する。(第2時での規則を変更するとき、児童から出てくることを予測して設定した。出てこなかった場合は、①のまま学習を進めていく。) <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>①</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>②</p>  </div> </div> <p>J 用具の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールが怖い、当たると痛いと感じる児童も安心して学習に取り組むことができるよう、本単元では柔らかいボールを使用する。

4 単元の指導と評価の計画（全6時間）

時間	1	2	3	4	5（本時）	6
学習段階	知る	つかむ		深める		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ポートボールの行い方や動きのポイントについて、発言したりワークシートに書いたりしている。【知】 ゲームや練習、準備の際に、場や用具の安全に気を付けている。【主】 	<ul style="list-style-type: none"> パスやシュートなど基本的なボールの操作ができる。【技】 ゲームで使用する道具の準備や片付けを、自分から進んで行っている。【主】 	<ul style="list-style-type: none"> 得点しやすい場所へ動き、シュートすることができる。【技】 ゲームが楽しくなるように、規則を工夫している。【思】 	<ul style="list-style-type: none"> ポートボールの型に応じた簡単な作戦を選んだり考えたりしている。【思】 ゲームの規則を守り、友達と協力して行っている。【主】 	<ul style="list-style-type: none"> 作戦および動きのよさについて考えたことを友達に伝えている。【思】 ゲームの勝敗を受け入れようとしている。【主】 	<ul style="list-style-type: none"> パスを受けやすい場所へ動くことができる。【技】 ポートボールに進んで取り組んでいる。【主】
学習活動	1 場・用具の準備 2 準備運動・補助運動 3 めあての確認					
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ポートボールの行い方を知ろう</div> 3 準備運動 4 補助運動の内容や学習の進め方を知る 5 補助運動に取り組む 6 ゲームの行い方や規則について確認する。（事前にスライドで規則は配布済み） 7 試しのゲーム①（総当たり戦） 8 整理運動 9 振り返り 10 片付け	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">勝つための方法を考えよう</div> 4 課題を解決するための練習方法を確認する。 5 作戦タイム・練習 6 ゲーム②③ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0; text-align: center;">※ 総 当 た り 戦</div> 7 ルールの確認・変更 8 整理運動 9 振り返り（クラス全体・個人） 10 片付け	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ポートボールの規則をくふうしよう</div> 4 課題を解決するための練習方法を確認する。 5 作戦タイム・練習 6 ゲーム④⑤	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">作戦や練習を生かしてゲームをしよう</div> 4 作戦タイム① 5 ゲーム(前半) 6 作戦タイム② 7 ゲーム(後半)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">作戦や練習を生かしてゲームをしよう</div> 4 作戦タイム① 5 ゲーム(前半) 6 作戦タイム② 7 ゲーム(後半)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">作戦や練習を生かしてゲームをしよう</div> 4 作戦タイム① 5 ゲーム(前半) 6 作戦タイム② 7 ゲーム(後半)
評価の重点	知 ① 学習の様子 学習カード	② 運動の様子	④ 運動の様子	② 学習の様子	③ 学習の様子 学習カード	① 学習の様子 学習カード

5 本時の活動計画 (5/6)

(1) 本時の目標

- ・パスやシュートなど基本的なボールの操作ができる。【知識及び技能】
- ◎作戦および動きのよさについて考えたことを友達に伝えている。【思考、判断、表現力等】
- ・ゲームの勝敗を受け入れようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 本時の展開

○児童の主な学習活動 ・予想される児童の思いや考え	*教師の指導・支援 ☆評価規準 (評価方法) 【観点】
<p>○場・用具の準備 (3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートボール台 ・ボール ・コーン <p>○準備運動・補助運動(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主運動につながる運動をする。 <p>○めあて、学習の流れの確認(2分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>め 作戦を生かして、ゲームをしよう。</p> </div>	<p>*安全に気を付けて、協力して取り組んでいる児童を賞賛する。</p> <p>*運動で使う体の部位を意識できるように声をかける。</p> <p>*前時に、自分のチームや相手のチームに応じて作戦を立てているので、チームで確認するように伝える。</p> <p>*チームの作戦とは別に、自分のめあてを立て、伝え合う。</p>
<p>○主運動①(13分)</p> <p>【作戦・練習タイム①】 4分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、作戦を確認する。 ・チームの課題に適した練習に取り組む。 <p>【ゲーム①】 前半 4分 後半に向けての作戦の確認 1分 後半 4分</p> <p>○主運動② (13分)</p> <p>【作戦・練習タイム②】 4分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム①を振り返り、作戦を確認する。 ・チームの課題に適した練習に取り組む。 <p>【ゲーム②】 前半 4分 後半に向けての作戦の確認 1分 後半 4分</p>	<p>*【作戦・練習タイム①】 チームの話し合いに積極的に入り、作戦の確認や練習方法について共に考える。</p> <p>*【ゲーム①】 作戦を効果的に使えているチームへの称賛を積極的に行う。加えて、良い動きやプラスの声掛けができていることを称賛したり、作戦が正しく機能しているか指導したりする。</p> <p>*【作戦・練習タイム②】 ゲーム①で勝っているチームには、良かった点や頑張っている点を具体的に伝える。負けているチームには、どこをどうしていけばよいのかを一緒に考え、作戦・練習につながるようにさせる。</p> <p>*【ゲーム②】 作戦を効果的に使えているチームへの称賛を積極的に行う。負けているところには作戦が正しく機能しているか指導する。</p> <p>☆作戦および動きのよさについて考えたことを友達に伝えている。(思考、判断、表現力)【児童の様子・学習カード】</p>
<p>○整理運動 (2分)</p> <p>○まとめ・振り返り(5分)</p> <p>○片付け (2分)</p>	<p>*使った部位を意識してほぐすように声をかける。</p> <p>*全体で振り返り、その後チームごとに話し合い学習カードにまとめる。</p> <p>*協力して素早く片付けられるように声をかける。</p>